

# 地域循環共生圏について

# 目次

---

- 01 EPO中部とは
- 02 「地域循環共生圏」について
- 03 地域循環共生圏づくりで大切なこと  
(=EPOが支援する理由)
- 04 中部の事例1 ～協働のプロセスの一例～
- 05 中部の事例2 ～同時解決と協働の波及効果～
- 06 多治見エリアにおける地域循環共生圏の  
キックオフに向けてEPOが期待すること

# EPO中部とは

「EPO;環境パートナーシップオフィス」は、協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境省が環境教育等促進法に基づき全国に設置した施設・組織。

## 「EPO中部」は

中部エリアの7県で、SDGsの推進・実践や環境活動に取り組む皆さんをサポートする環境省の施設です。持続可能な地域づくりにEPO中部をご活用ください。



# こんな時はEPOへ…



## ✓ 情報が知りたい、情報を収集したい

「協働、ESD・SDGsに関わる情報」「国や自治体などの環境保全、環境学習等に関わる施策・計画」「全国／地域の環境活動の動向」「ほかの地域や団体等の取組事例やイベント」などの資料やパンフレット等入手できます。(一部資料は閲覧のみとなっています。)



## ✓ 相談・照会したい、紹介してほしい

環境保全活動や環境学習、ESD・SDGs、地域づくり・人づくり・ネットワークづくりなどに関わる相談・照会を受け付けています。

例えば(実績): 小学校での環境学習の講師役の紹介、SDGsに関連するCSRイベント、ワークショップの企画・講師、地域住民による意見交換会のワーキング・プログラムについての組立 など。

## ✓ 広報したい、PRしてほしい

中部地方の環境、SDGs、その他地域づくりに関わる事業や活動、イベントの情報発信をウェブサイト、Facebookページ、メルマガなどで行っています。

イベントの参加者募集や広くPRしたい活動などがございましたら、メールで情報(掲載内容)をお寄せください。配架用のチラシ・パンフレット等も受け付けています(※送料は各自負担でお願いいたします)。

◆EPO中部／中部地方ESD活動支援センターからの発信媒体

EPO中部: <http://www.epo-chubu.jp/>

中部地方ESD活動支援センター: <http://chubu.esdcenter.jp/>

メルマガ: そらいる通信 ~EPO-Chubuメールマガジン~

(毎月第2火曜配信)

## ✓ ちょっとした会議や打合せをしたい

ミーティングや資料閲覧などに、施設内のフリースペースをご利用いただけます。

※会議・打合せなどの長時間利用の場合は、事前にご連絡いただけますと幸いです。



# EPO中部の独自ツール

01

## 活動見える化プログラム



### 活動見える化プログラム

EPO中部では、協働取組の支援のため「活動見える化プログラム」を構築し、地域活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化する分析手法として活用しています。

02

## SDGsチェックリスト



### SDGsチェックリスト

SDGsチェックリストは事業や活動を17ゴールと関連づける『気付き』のためのツールで、中部地方ESD活動支援センター（EPO中部）のオリジナル・ツールです。

03

## ワークショッププログラム



### EPO中部の ワークショッププログラム

地域循環共生圏づくり（ローカルSDGs実践）に取り組む地域／団体などを対象に、EPO中部が実施したワーキングのプログラムを紹介・公開しています。

いずれもEPO中部ウェブサイトで公開。DLできます。<https://www.epo-chubu.jp>

SDGsチェックリスト(基本段階版) ver.1.20

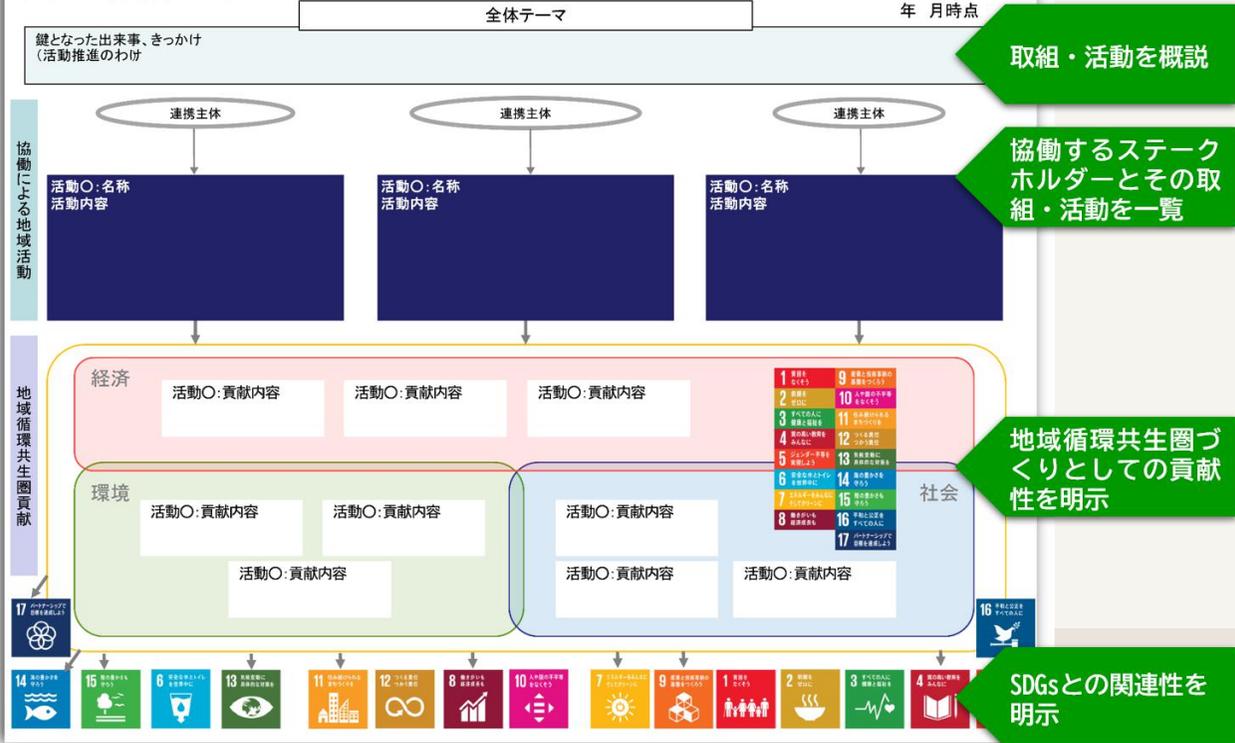
監修：SDGsツール作成ワーキンググループ(2019年度) 発行：環境省中部地方環境事務所・中部地方ESD活動支援センター

分類と例示	すでに行っている取組内容	SDGs目標との相互関連チェック!																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1. 飲食の提供や管理	食堂、キッチン等の運営管理																	
2. 省・脱炭素エネルギー利用	省エネの実践、省エネ利用																	
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫																	
4. 通勤(通学)、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコカー採用、エコドライブ																	
5. 調達(購入)と廃棄物処理	効率的調達、グリーン購入、3R																	
6. 施設と設備	環境配慮建築、持続可能性や多様な配慮した施設や設備																	
7. 公正な働き方	教育の推進、労働の公正性、多様な関係者の人権の尊重																	
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの貢献																	
9. 安心・安全	地域防災、地域防犯																	
10. その他の仕事(事業)などを通じた貢献																		

# SDGsチェックリスト

ダウンロードして自由に活用いただけます。

## 活動の意義(評価)分析



エクセル表から簡単に入力できます。(EPOがヒアリングして作成することもあります。)

## 活動見える化プログラム



# 「地域循環共生圏」について

SDGsのウェディングケーキモデルを例に・・・



EPOにとってのSDGs  
＝「ローカルSDGs」  
＝「地域循環共生圏」

環境省は「地域循環共生圏はローカルSDGsである」として捉えている。

そしてEPOは、地域循環共生圏づくりの支援も行う組織・施設となっている。

# 地域循環共生圏 = 自立・分散型の持続可能な社会

地域の主体性:オーナーシップ 地域内外との協働:パートナーシップ 環境・社会・経済の同時解決



地域循環共生圏（2018年、閣議決定）とは、**地域資源を活用し、環境・経済・社会を良くしていくビジネスや事業（ローカルSDGs事業）**を社会の仕組みに組み込むとともに、例えば都市と農村のように、地域の個性を活かして**地域同士で支え合うネットワークを形成**するという、「**自立・分散型社会**」を示す考え方。

その際、私たちの暮らしが森・里・川・海の連関からもたらされる豊かな自然環境に支えられていることを基本とする。

## 地域循環共生圏づくりで大切なこと (=EPOが支援する理由)

地域循環共生圏の話をする際、地域の様々な要素が関係性をもち、循環し、つながりを広げていき、また、それが成り立つ状態にしていくこと「エコシステムにしていく」と表現することがあります。

### 地域循環共生圏では

(生態系、社会システムの意味でも)

### 「つながっている」「なりたっている」 ことを重視

- 古くからあるつながりに目を向ける
  - 忘れられたつながりを取り戻す
  - 本来あったつながりを結び直す
  - 新しいつながりを創出する
- ▶ 「つながり」が  
「なりたちつづける」  
ものに



何を？何が？

= 地域資源、地域課題、ヒト・コト・モノ

### 協働による エコシステムとしての 地域循環共生圏

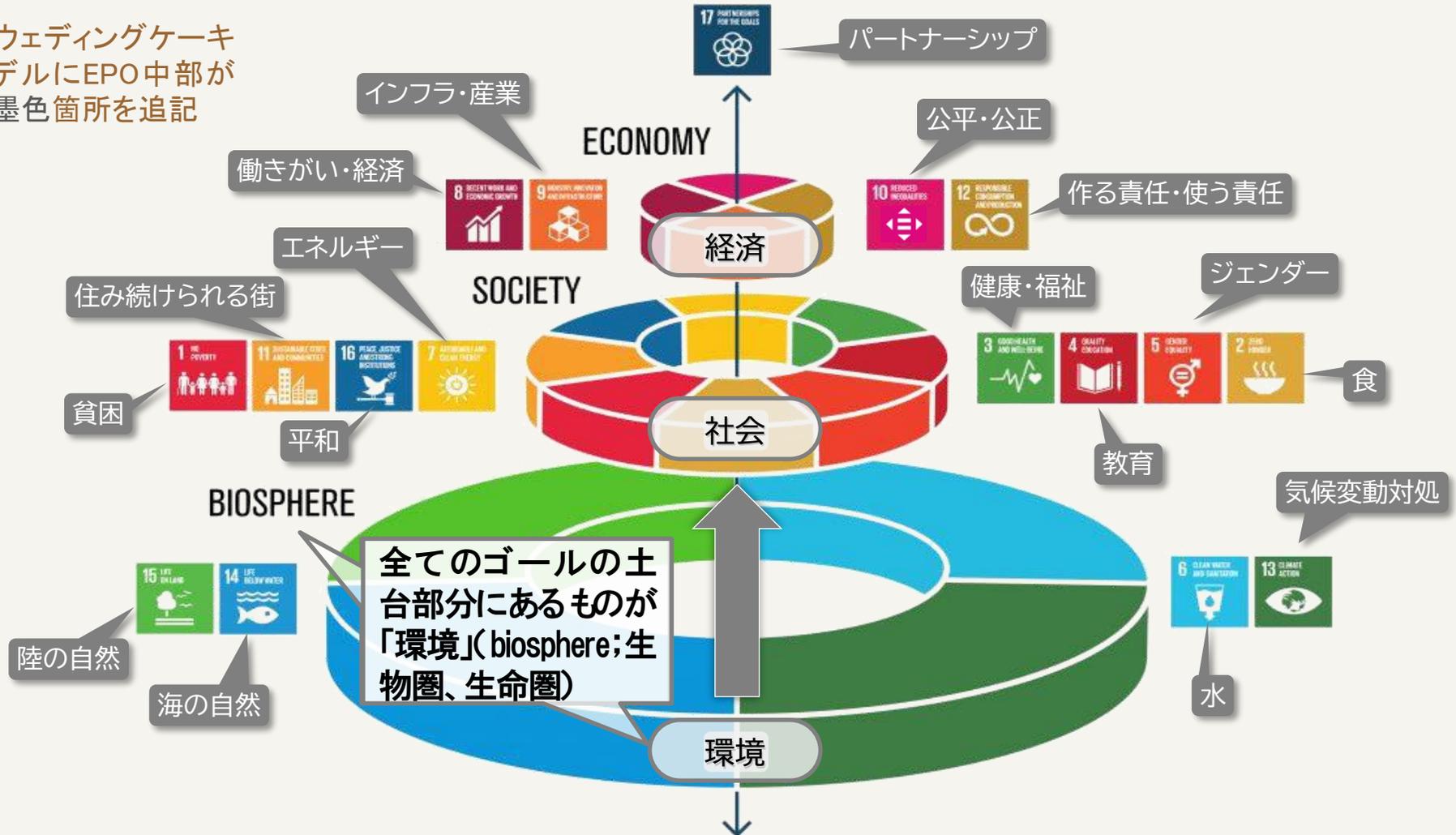
エコシステムは、もともと、ある地域に生息するすべての生物群集と、それを取り巻く環境とを包括した全体を表現する言葉で、「生態系」という言葉が近い。

ビジネスや経済などの社会システムにもおきかえられた「ecosystem」という英単語があり、業界(企業と企業)や製品がお互いに連携することで大きな収益構造を構成する様子を表す言葉となっている。

# SDGsでは「環境」が...

相互に関連するSDGsの例: ウェディングケーキモデル

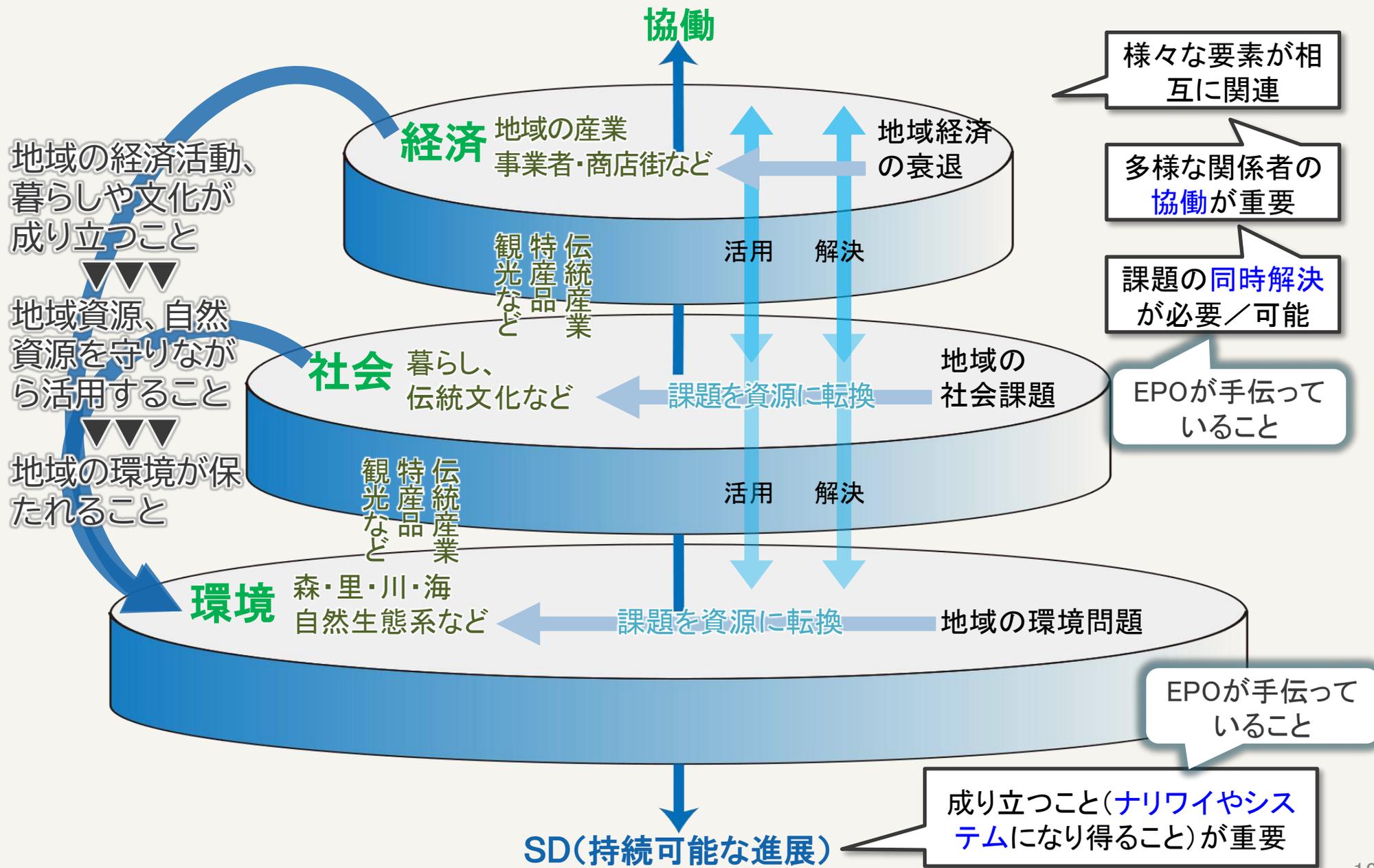
※ウェディングケーキモデルにEPO中部が薄墨色箇所を追記



出典: Stockholm Resilience Centre <http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html> <https://ippjapan.org/archives/2408>

Graphics by Arboni, Loïs/Laetitia/Warner

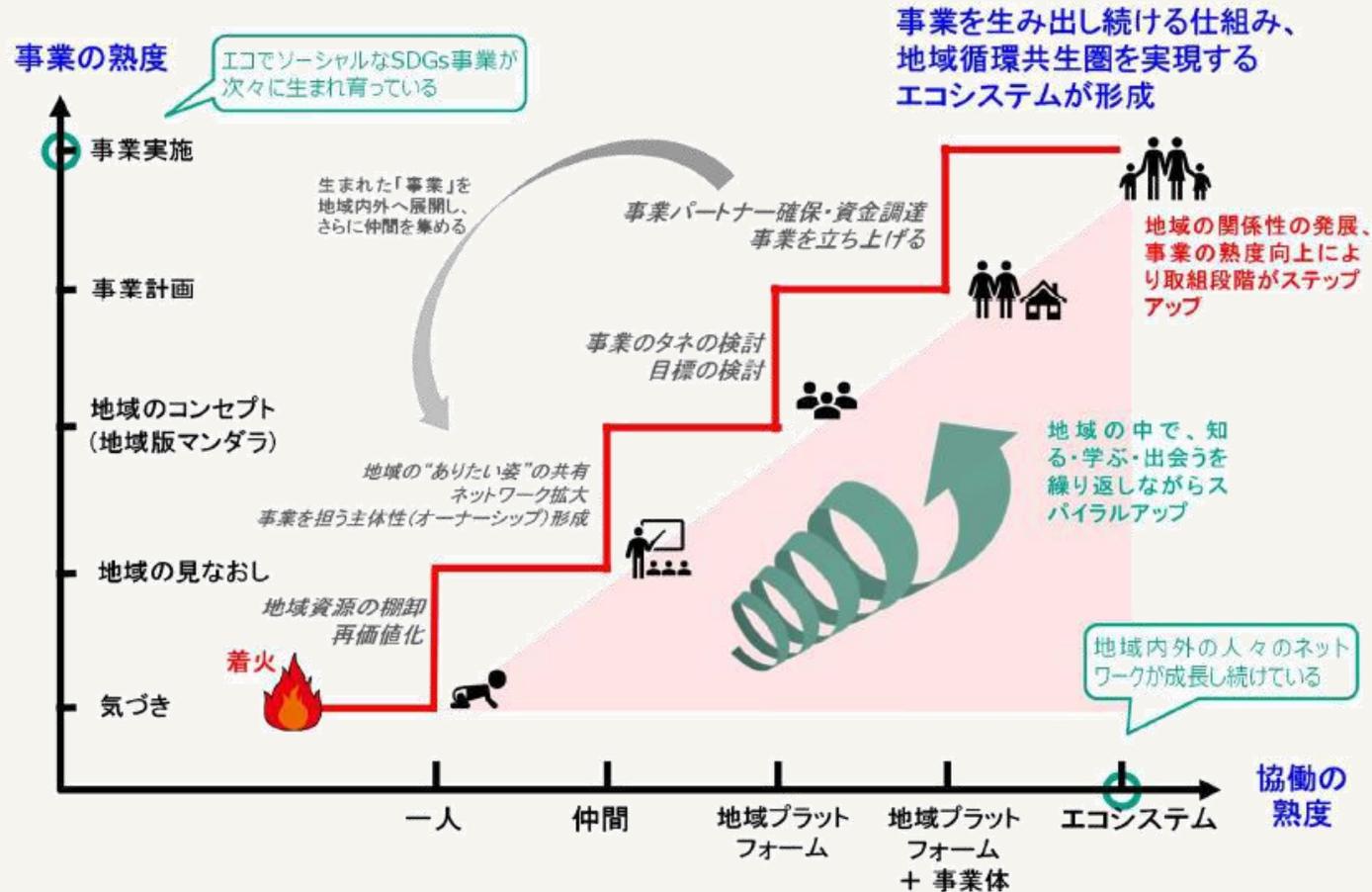
# EPO中部の関わってきたローカルSDGs;地域循環共生圏づくり



# ローカルSDGs実践(地域循環共生圏づくり)とは



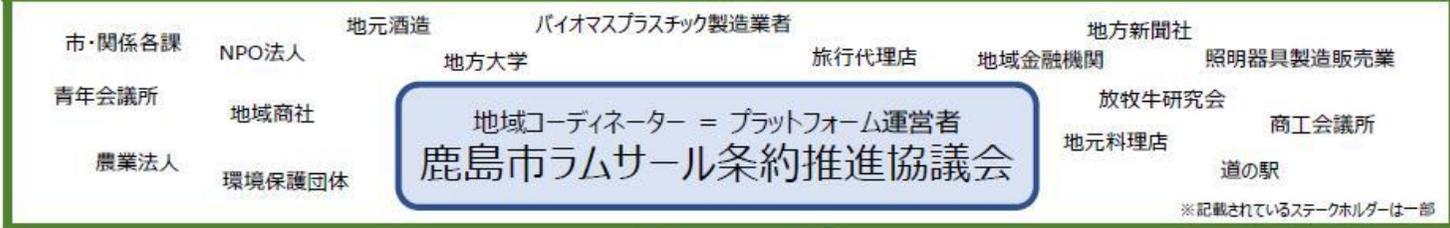
↑下の手引きなどの関連資料を  
環境省の地域循環共生圏ポータル  
サイトで閲覧・ダウンロードできます  
<http://chiikijunkan.env.go.jp/manabu/>



「地域循環共生圏創造の手引き」(環境省大臣官房環境計画課)より

## 鹿島市ラムサール条約推進協議会（活動地域：佐賀県鹿島市内）

形成された地域プラットフォーム：ステークホルダー 80 団体



### 成果

創出した  
ローカル  
SDGs  
事業の数

23



#### ラムサールブランド商品の開発・販売

- ラムサール条約湿地である肥前鹿島干潟の保全に寄与する商品に対して専用シールを貼付。当該シールを事業者に買い取ってもらうことで、商品のブランド化と、商品売上げの一部が協議会の設置する基金に還元される仕組みを構築
- 基金は干潟の保全活動に活用しており、累計100万円を突破
- ラムサールブランド商品は主に、干潟に隣接している道の駅鹿島で販売
- 商品の一部は、東京ソラマチで開催されたSDGs関連ポップアップショップでも販売



#### グリーンインフラ日本酒の開発・販売

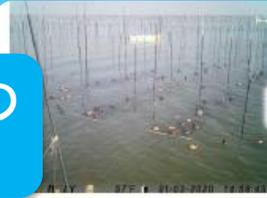
- 鹿島市山間部の棚田は、土砂崩れを防ぐグリーンインフラ(GI)として機能しており、干潟への土砂流入による環境悪化を防いでいるが、耕作放棄が進んでいる
- このため、棚田で栽培した米を地元の酒蔵が買い取って醸造し、「グリーンインフラ日本酒」として販売。この際、地銀が設置した地域商社を介して販路拡大し、販売開始約1月で約3000本を販売
- 酒粕等の廃棄物は、耕作放棄地で放牧している経産牛のエコフィードへの活用、酒蔵ツーリズムで使用するプラスチックカップの材料として使用



#### はじまりの取組

#### 酒蔵ツーリズムにおける脱炭素化

- 肥前浜宿には酒蔵が多く、イベント時には全国から8万人以上の観光客が来訪するが、試飲用のプラスチックカップの大量廃棄が課題
- そこで、米等の国産バイオマス資源を活用して作られるプラスチック樹脂素材により試飲用プラスチックカップを製作し、酒蔵ツーリズムにおける脱炭素化を推進
- 同プラスチック樹脂素材は、肥前鹿島干潟のゴミ拾い活動時のゴミ袋としても活用予定



#### カモの食害対策 × エコツアー

- 干潟ではワカサギ養殖が盛んだが、カモによる食害のため、干潟の保全に対する漁師の理解・協力が得られにくいことが課題
- LEDによる野鳥の誘導技術を持つ企業と連携し、カモを干潟から追い払いつつライトアップし、ナイトツーリズムのコンテンツを生成。旅行会社と連携してモニターツアーを開催

### 環境・社会・経済課題の同時解決



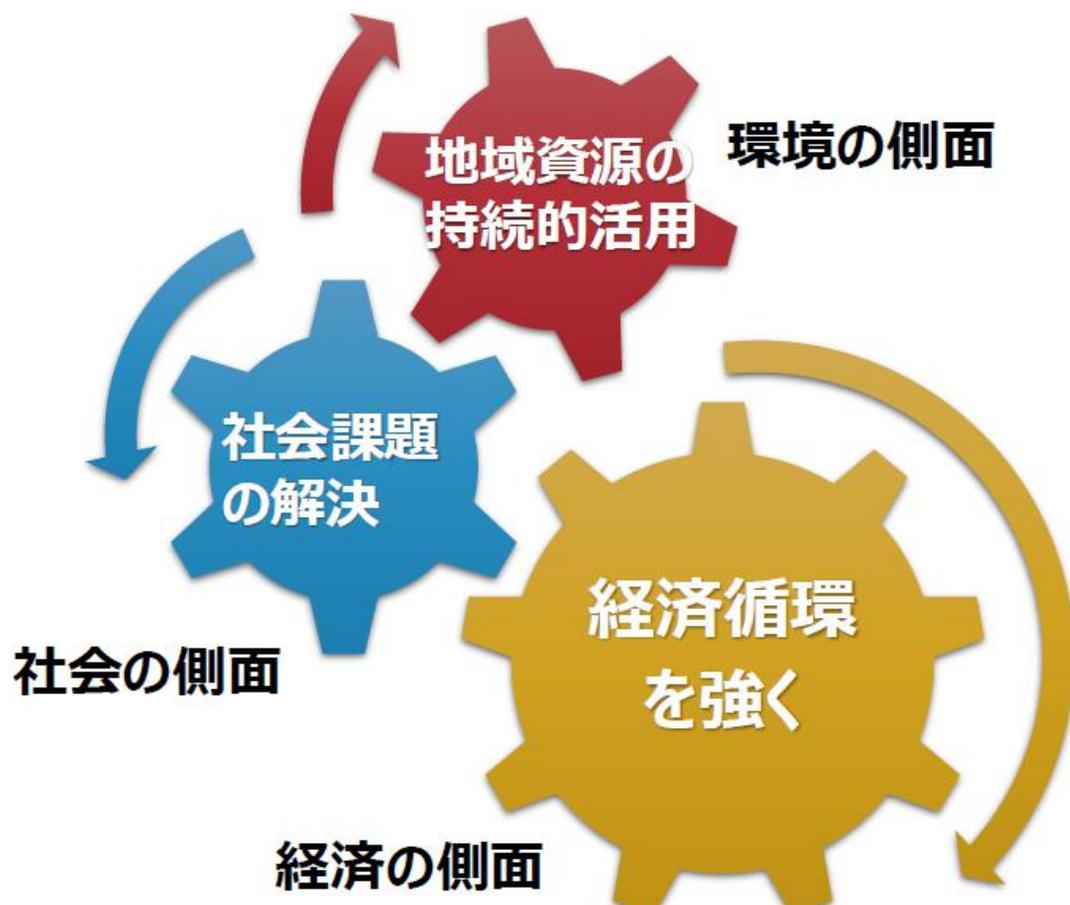
**地域の  
主体性**  
(オーナーシップ)

地域の人が、**ワクワク感とやりがい**を大切にしながら、主体的に事業を立ち上げ、運営している

**協働**  
(パートナーシップ)

**地域内**の多様な分野の人による協働、**地域外**の人とのつながり・支えあいによって、事業を立ち上げ、運営している

カギは、「ローカルSDGs事業」を地域でたくさん生み出すこと



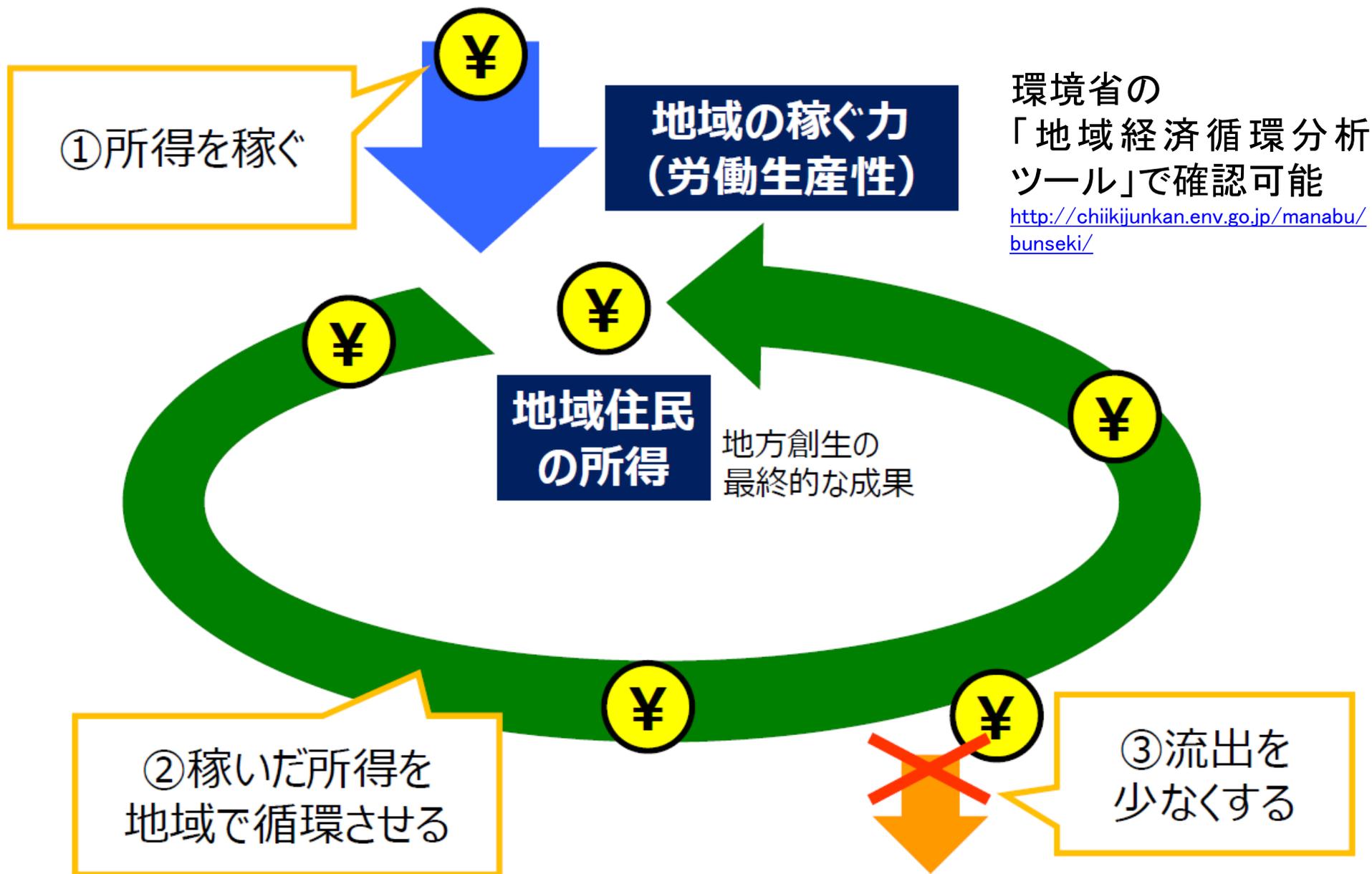
環境・経済・社会を  
統合的に良くする  
事業・ビジネス

= ローカルSDGs事業



たくさんのローカルSDGs  
事業により、地域づくりを  
持続的に行っている地域

= 地域循環共生圏



## 中部の事例1 ～協働のプロセスの一例～

---



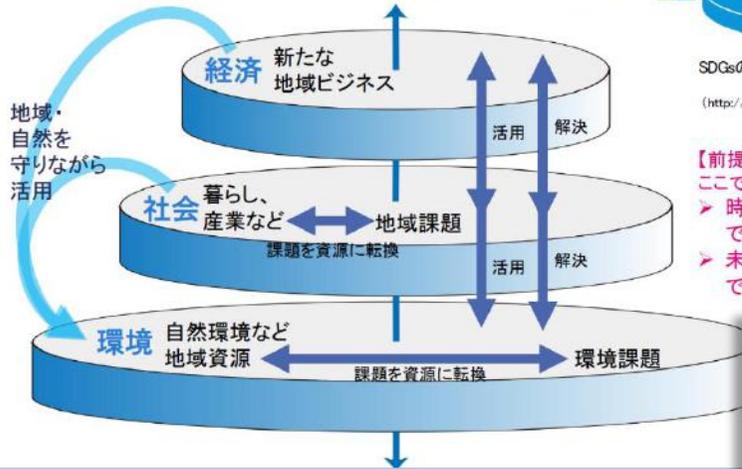
### 郡上市地域共生圏協議会 (岐阜県郡上市)

岐阜県郡上市で地域循環共生圏の実現に向けて、地域の未来像(ローカルSDGs)づくりに取り組む環境省事業に選定され、計4回の勉強会をEPO中部による伴走支援で実施しました。

環境省の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業(2020～2021年度)に採択

# マンダラ（ローカルSDGs）の組立

2020年10月28日現在  
このPFで実現したいと思う地域の未来像



【前提として】  
ここでの未来像は  
▶ 時間・メンバー等々で変化していくもの  
▶ 未来像を「決める」のではなく「共有」する

# 例えば 第3回勉強会では 2020年10月実施

EPO中部のファシリテーションで“なりたい地域の未来像”（ローカルSDGs）づくりワークショップを実施。



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



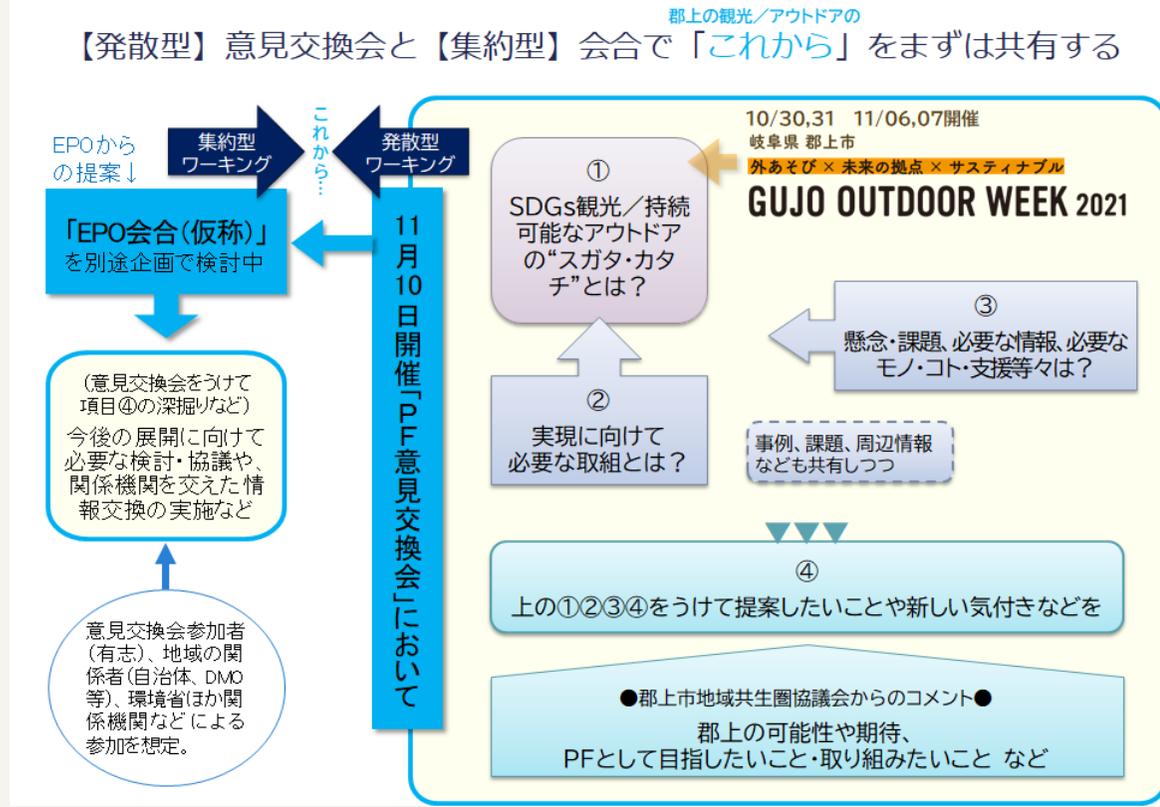
地域の多様な人材が参加して『SDGsのウェディングケーキ』を基に、地域の中で守り、活用すべき地域の要素を抽出。

これを整理し、ヒントにして、事務局が地域の未来像（環境省事業の通称「地域版マンダラ」）を作成。





# 2021年度 アウトドア事業者も交えて郡上の観光の未来像を明確化



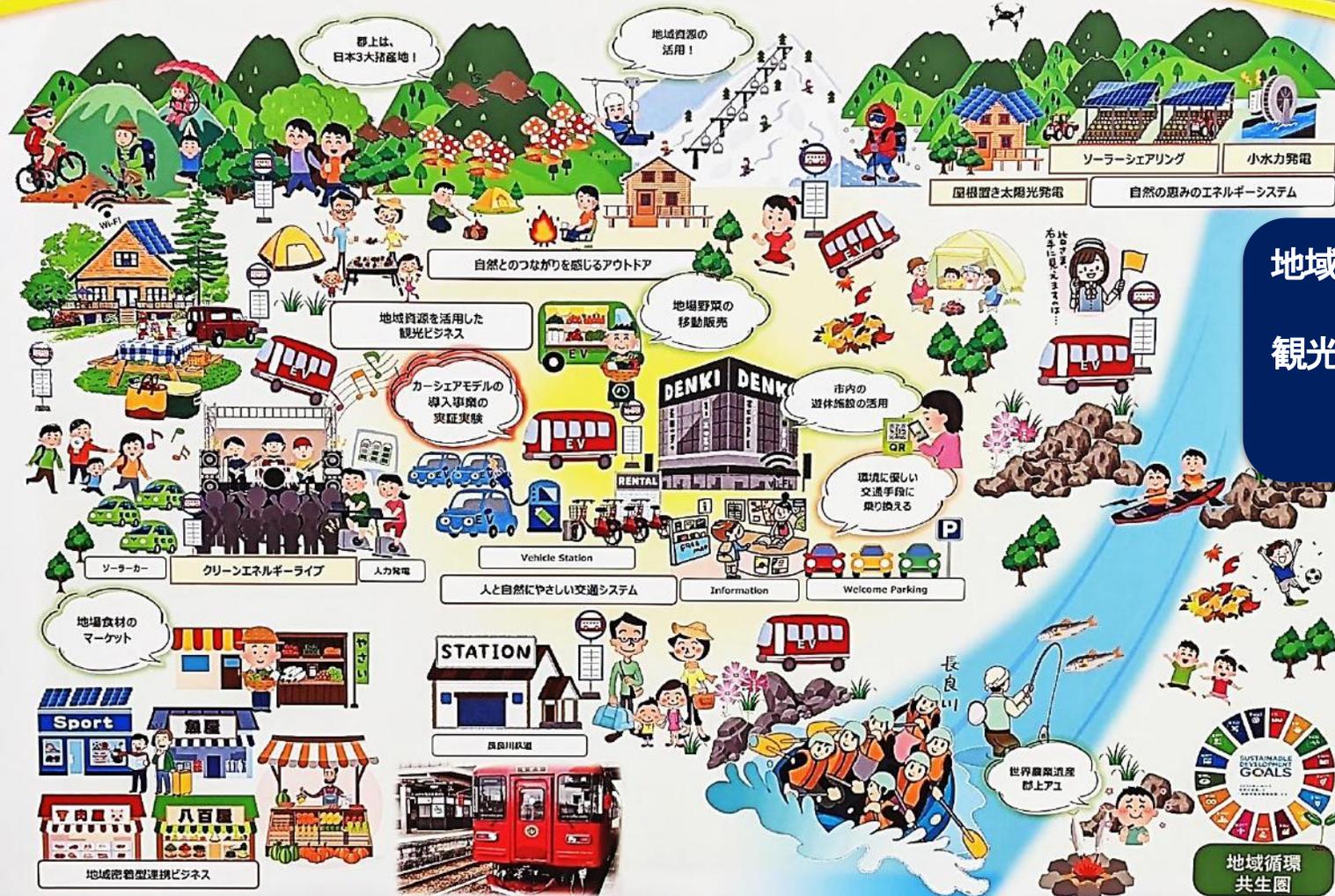
- 2021年11月10日にSDGs実践意識を持つアウトドア事業者と採択団体による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで「地域商社」設立について議論することになった。

# 11月6-7日開催GUJO OUTDOOR WEEK2021で郡上市地域共生圏協議会が展示した パネル“なりたい地域の未来像”

郡上市地域共生圏協議会

## 観光立市\_郡上市地域循環共生圏

2021/10/30,31 11/06,07  
GUJO Outdoor Week 2021



地域循環共生圏  
×  
観光(アウトドア)  
×  
再エネ



# GUJO OUTDOOR WEEK2021

## CONCEPT

コンセプト

岐阜県 郡上市

外あそび × 未来の拠点 × サステナブル

### GUJO OUTDOOR WEEK 2021

SAT SUN 10/30.31 SAT SUN 11/06.07

郡上の未来を考える…アウトドアの祭典

郡上全域が会場となるアウトドアイベントです。

セントラル会場ではアウトドアや自然に関するブースや様々な飲食店、ショップが軒を連ねます。そして、市内の各会場では初心者からベテランまで楽しめる体験プログラムが盛り沢山。

セントラル会場でゆっくり過ごしたり、各会場を回ってみたり。

様々な体験プログラムに参加するなど。

あなたに合わせたスタイルでお楽しみください。



遊べる川と雪山を残す為に。  
100年先も郡上に



未来の環境のことを考えながら、郡上のフィールドで、どっぷりとアウトドア体験に浸る4日間。私たちが今できることをいっしょに考える第一歩にしたいと考えています。

郡上アウトドア事業者協議会

セントラル会場 入場無料

「できることから」始める。未来の拠点



11/06 07 SAT SUN DAY.1 10:00~20:00 DAY.2 10:00~15:00

セントラル会場

アウトドア関連のショップや地元が誇る飲食ブース、子ども向けの体験からアクティビティまで、持続可能な地域社会を実現するための魅力的なブースが並びます。

 会場内駐車場はご利用いただけません。

セントラル会場へのアクセス方法

最寄り施設駐車場への案内・車いす駐車場



## 中部の事例2 ～同時解決と協働の波及効果～



### 飯山林福連携事業 (長野県飯山市)

長野県飯山市で活動する任意団体・里山ウェルネス研究会が取り組む飯山林福連携事業が環境省の「同時解決事業」に採択され、EPO中部が2年間、伴走支援を行いました。

環境省のSDGsを活用した地域課題の同時解決事業(2018-2019年度)に採択

# 森林(もり)づくり(里山保全・林業)と福祉の同時解決

**地域課題①** 里山整備等が出た間伐木材の利用が進まない。

**地域課題②** 障がい者等の就労支援においては、実習先の確保等が課題。

**地域課題③** 冬の期間(積雪期)における林家や林業従事者の収入減少

林業家と障がい者の自立支援NPOが連携した取組

間伐材の未利用木材商品の付加価値と障がい者支援

- ①未利用木材の新しい活用方法、林業家の新たな収入源の確保
- ②福祉施設入所者等の新しい支援先、支援方法の開発
- ③里山への地域の関心向上、里山保全へ



## 活動エリアの 里山の林業と 人工林



チップかバイオマス発電用にしか使えないような質の悪い木材。経済的な価値は低い。



### 飯山ログファイヤー

- 丸太の上部を加工して着火スピード向上。
- 性能的に向上させたログファイヤーだが、チェーンソーを扱える人にはすぐにつくれる。

### 付加価値により 新しい木材加工品を考案

- 見た目がきれい; イベント、セレモニー向き  
...用途の明示で多用途化
- 木くずがあまり出ない; 汚れにくい  
...店舗販売、贈答用
- ムシが入りにくい; 長期保存に良い  
...防災用?
- 皮むきは慣れると比較的簡単、そして楽しい  
...障がい者による作業も可能

「飯山ログファイヤー」生産を  
林福連携展開できないか

## 2年間の取組

2年間に実施したこと

実施中・実施予定の取組

当初計画になかった展開/SHのアイデアを実施

### 間伐材の活用+森林空間の活用の仕組みづくり →地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出

大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究

飯山市と連携して森林セラピー事業(従前から展開)

里山の維持管理に利用する林道を整備(県事業)

大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト

大学生の出張カフェ・サークルにログファイヤー提供

里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり

障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名

障がいのやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定

障がいの作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発(継続中)

障がいの作業実証⇒作業の安全性・使いやすしい道具などを検証

作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査

飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続

地区住民(自治会役員等)への説明

林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催⇒ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化

ログファイヤー製作手順マニュアルづくり

旅行会社に里山体験プログラム提案

ログファイヤー使用者への利用意向調査

燃焼実験⇒含水率別の着火時間の計測



NPOの里山活用プロジェクト「森カフェ」インストラクター養成講座でログファイヤー活用予定

ログファイヤーの全国販売(日本森林林業振興会との提携手続き中)

ログファイヤーの「ふるさと納税」登録(手続き中)

ログファイヤーのオリパラ活用(現在、関係機関と協議中)

ログファイヤーの標準サイズ等規定づくり

間伐材でログファイヤーの生産・販売、地域に普及  
↓未利用間伐材に付加価値創出して活用

障がい者による木材加工作業を実証  
⇒自立支援↓木材加工品の付加価値として発信

# 飯山林福連携事業の(2年間の)成果とは …2019.12.16 協議会でディスカッション



## 本事業での位置づけ

### 「飯山ログファイヤー」

障がい者等が加工・生産作業を行ったログファイヤーと位置づけ

「飯山ログファイヤー」の付加価値として発信していくこと  
着火しやすい、保存に適しているなどの機能面に加えて、障がい者の方たちが加工・生産作業を行っていること

- 福祉施設の人がログファイヤー生産の加工に携わる生産のため1人を新規雇用
- 福祉施設の人が2年間でのべ約25人が加工作業を行い、飯山ログファイヤー約50本を生産・加工
- **障がいのある方の生活の場の増加、選択肢の増加**



## 環境

【課題】間伐された木材利用が進まない  
・里山の手入れの不足  
・資源循環が進まない  
・冬の雪の量が多い

- 障がい者の「森の利用」にもつながっている
- 地域の人が地元の里山・森・木に関心をもつように；里山の林道整備等(地域側も一部事業費負担あり)にも地域住民の賛成で促進へ
- 里山の間伐した場所にカタクリが生育しはじめた

## 社会

【課題】障がい者の雇用支援の不足  
・里山の整備人口の高齢化、里山の整備人口の減少  
・地域住民の意識の低下  
・地域でのつながりが無い  
・障がい者の受け入れ場不足

### 「森林サービス」産業の取組

→新たな飯山版「里山サービス」のスタート

### <作業した障がい者・施設スタッフの声(作業検証アンケート結果より)>

■ 楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。■ はじめは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。■ 施設から出たの作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた。■ 作業を通じて他の人(林業家)と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。

## 経済

【課題】冬期の林家及び林業従事者等の収入の減少  
・冬場の働き場の不足  
・新しい木材製品が生まれてこない  
・地域経済循環が少ない

### ■ ログファイヤー販売(全国)展開

■ 地元キャンプ場、ホテル等から発注の動き

### ■ 未利用間伐材に価値を付加

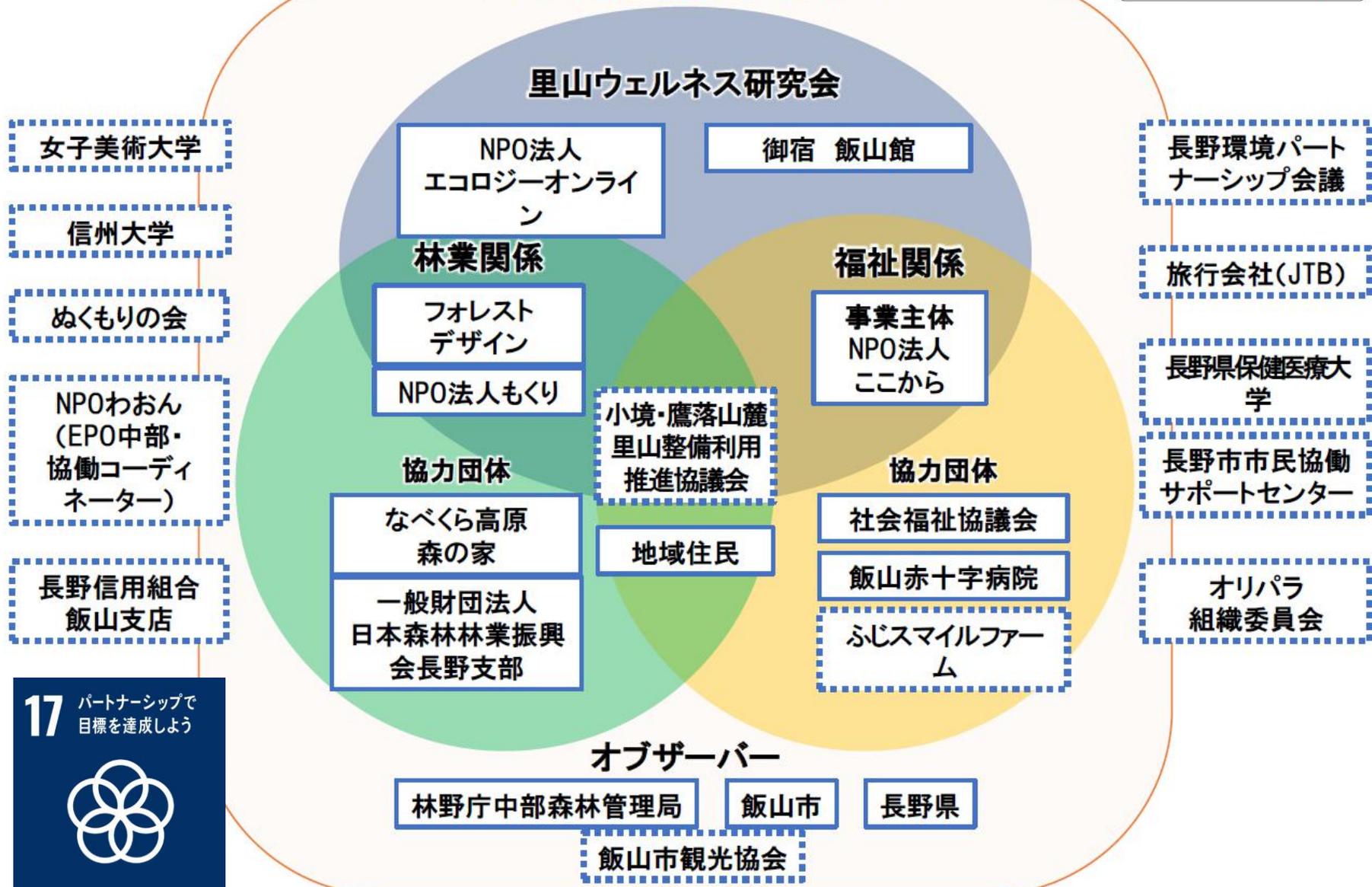
- ログファイヤー製作体験会で地域の林業家や住民にログファイヤーの製作方法を普及(計13人が参加)
- ログファイヤーの規格を明確化
- 飯山ログファイヤーの地域イベントでの活用



# ステークホルダー (2020年2月現在)

## 飯山林福連携推進協議会

  : 当初からのSH  
  : 事業を進める中で協力のあったSH



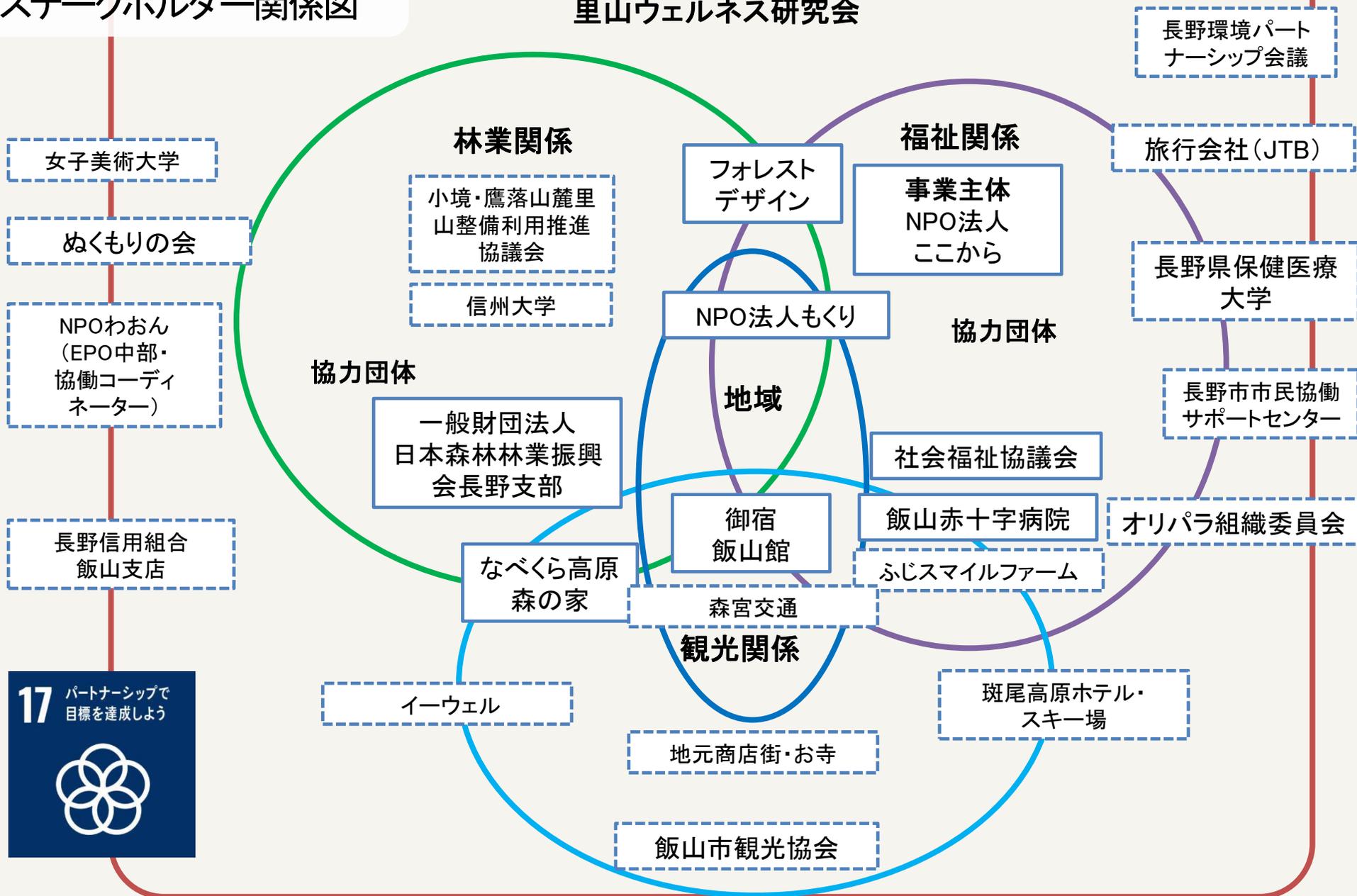
17 パートナースHIPで  
目標を達成しよう



# 2021年6月時点の報告での ステークホルダー関係図

## 飯山林福連携関係図

### 里山ウェルネス研究会



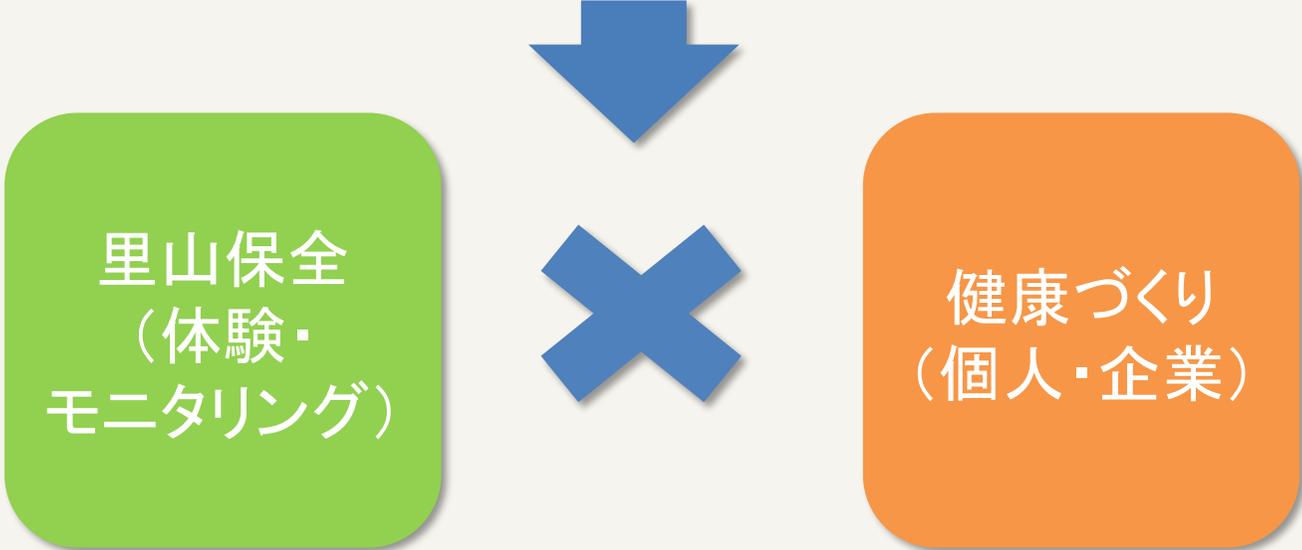
**17** パートナーシップで  
目標を達成しよう

## \* 今後の活動とテーマ

\* 未利用材を活用したログファイヤーにおける林福連携

\* 森林環境を活用した認知症予防及び障がい者の自立支援改善の取り組み事業

\* 観光事業と連携した里山体験における里山改善と健康



里山保全  
(体験・  
モニタリング)

健康づくり  
(個人・企業)

# 多治見エリアにおける地域循環共生圏のキックオフに向けてEPOが期待すること



## 「共有」してください

EPOは、協働のための「ディスカッション」を「共有の場」と認識しています。

- ✓ 地域課題・資源を抽出する
- ✓ なりたい地域の未来像をつくる
- ✓ そのためのプラットフォーム／ネットワーク／『場』を設ける



## 大切にしてください

地域資源・課題（人・もの・コト・情報）のつながりを見つめてください。新たに発見してください。

- ✓ 地域に付加価値の創出を
- ✓ 地域のなかで「創発」続発へ
- ✓ ワクワク感と共感を（正しさだけが全てではなく）

「創発」・・・要素間の局所的な相互作用が全体に影響を与え、その全体が個々の要素に影響を与えることによって、新たな秩序が形成される現象。

出典：デジタル大辞泉(小学館)

# 環境省主催・地域循環共生圏フォーラム zoom参加の申込受付中

## 地域循環共生圏フォーラム 2023



**オープニング 9:30 ~ 11:00**

**基調講演 「持続可能な地域の作り方」**

**講師** 寛裕介氏  
issue+design 代表  
issue+design 代表 / 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授。東京大学大学院工学系研究科修士（工学博士）。2008年 issue+design 設立。以降、社会課題解決のためのデザインプロジェクトに取り組み、著書に『持続可能な地域のつくり方』、『ソーシャルデザイン実践ガイド』他。代表プロジェクトに震災ボランティア支援の「できますゼッケン」、地域住民とともに未来を描く「高知県佐川町・みんなでつくる総合計画」、持続可能な地域づくりシミュレーション「SDGsの地方創生」など。

**対談** 寛裕介氏 × 佐々木真二郎 **コーディネーター** 高橋 真寿美氏

**分科会 11:00 ~ 17:00** ※プログラム内容は、今後変更になる可能性があります。

- |   |   |
|---|---|
| <p><b>1</b> 現場からお届け！地域循環共生圏づくりのチェックリスト(案)</p>             | <p><b>2</b> 島の未来を創る熱量に、「今」投資を。人と仕事的好循環を生み出すお手伝い</p>                       |
| <p><b>3</b> 「食」から始まった地域づくり。広がり、つながる循環と共生の輪</p>            | <p><b>4</b> 行政主導で地域のSDGsビジネスを支援する～官民連携によるアクセラレーター運営の実践ノウハウ～</p>           |
| <p><b>5</b> 未来のために、環境のために、みんなで目指すプラごみゼロ～循環型社会の実現にむけて～</p> | <p><b>6</b> チャレンジ歓迎！地域外の人材とも連携したまちづくり</p>                                 |
| <p><b>7</b> エネルギーで地域を強くする！地域の「環境」と「経済」変革の時</p>            | <p><b>8</b> 産官学民のあらゆる関係者の取組発信を通じて地域共創を促す「Platform Clover」～豊田市での実践と協働～</p> |

関係省庁による地域循環共生圏づくりに関連した事業・取組紹介

**対象** ● 地域課題を解決したいけど取り組みのきっかけや具体的なアクションが分からない方  
● 地域づくりで壁にぶつかって解決のヒントを探している方

**開催日時** 令和5年 **11月7日 火** 9:30 ~ 17:00

**Zoom開催 | 参加費無料**  
**定員:各分科会300名程度**  
※事前申込が必要です。  
※マスコミ関係者の取材希望は右記フォーラム事務局へご連絡ください。

**【申込先】** 申込締切 **10/31(火)**  
<https://forms.office.com/r/ddXtTXkPjX>  
公式HP <http://chiikijunkan.env.go.jp/tsukuru/forum/2023/>  
**【問い合わせ先】**  
フォーラム事務局 いであ(株)菊地・平井  
☒ [forum@chiikijunkan.jp](mailto:forum@chiikijunkan.jp)



### プログラム詳細

**環境・社会・経済の同時解決で、好循環を生み出し、様々なステークホルダーを巻き込むヒントをご紹介します！**

※プログラム内容は変更する可能性があります。  
※分科会①～⑧は、プログラム終了後も登壇者と意見交換や参加者同士で交流することができ、放課後タイム(15分間)を用意する予定です。

9:30   9:35	開会挨拶：環境省	
9:35   10:50	<p><b>オープニング (基調講演) 「持続可能な地域の作り方」</b></p> <p><b>登壇者</b> 寛裕介氏 (issue+design 代表)</p> <p><b>対談</b> 寛裕介氏 × 佐々木真二郎 (環境省 地域循環共生圏推進室長)</p> <p>●コーディネーター 高橋 真寿美氏 (地域循環共生圏プラットフォームコーディネーター)</p>	<p>「持続可能な地域」とは、どのような地域でしょうか。地域を一つの生態系ととらえ、人と経済をデザインし、地域内で循環する独自の生態系を再生していく必要があります。様々な地域で取り組まれている持続可能な地域づくり、その中で生じる課題は共通するものも多くあります。様々な角度から地域の課題解決に関わってきた issue+design 代表の寛氏に持続可能な地域づくりに必要なエッセンスや有効なアプローチをお話頂きます。また、地域循環共生圏づくりとの関係性について環境省と対談します。</p>
11:00   12:00	<p><b>1</b> 現場からお届け！地域循環共生圏づくりのチェックリスト(案)</p> <p>登壇：GEOC 山口 登介氏 × 関東EPO 高橋 朝陽氏 × EPO九州 依藤 直哉氏 × EPO (地方環境パートナーシップオフィス)</p> <p>地域の未来のために、地域づくりの輪を広げたい。地域をより良くしたい人への入門講座です。「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」において、地域への奔走を実現してきた EPO の立場から、地域プラットフォームづくりのポイントや「あるある」な事としてご紹介いたします。これをヒントにあなただけのプラットフォームづくりを始めましょう！</p>	<p><b>2</b> 島の未来を創る熱量に、「今」投資を。人と仕事的好循環を生み出すお手伝い</p> <p>登壇：株式会社島と土 阿部 裕氏 × 株式会社まきはた 掛谷 裕一氏</p> <p>「人づくり」と「仕事づくり」の好循環をさらに促進するためにあふると納税も活用して設立された海士町の「未来共創基金」。「自立・担い手・交流」を掲げる海士町で基金が生まれたきっかけや地域の事業を支援して仕込み、実際に採択された事業についてもご紹介いたします。基金を活用した地域・カル SDGs 事業を支援する仕組みに興味のある方、必見です！</p>
13:00   14:00	<p><b>3</b> 「食」から始まった地域づくり。広がり、つながる循環と共生の輪</p> <p>登壇：生活クラブ連合会 伊藤 由理子氏 × 酒田市 五十萬 雅彦氏</p> <p>庄内地方では、生活クラブが長年に渡り築いてきた生産者と消費者の交流を基盤として、「食」(エネルギー)「福祉」の白線を軸とした地域づくりが進んでいます。地方と都市の様々な人達がライフステージにあわせて、つながり広がることで進む地域づくりとは？参加する暮らしとは？取組を広めたい、異分野の人とも巻き込みたい、そんな方にお話します。</p>	<p><b>4</b> 行政主導で地域のSDGsビジネスを支援する～官民連携によるアクセラレーター運営の実践ノウハウ～</p> <p>登壇：BBT大学経営学部/大学院経営学研究科 谷中 修吾氏 × 静岡県 杉村 智司氏</p> <p>行政がローカル SDGs を推進する上で、地域に存在する SDGs ビジネスを発掘して成長させる方法とは？本セッションでは、官民連携による事業成長支援の手法としての「アクセラレーター」に注目し、BBT 大学教授の谷中氏が解説。具体的事例として、静岡県が取り組む「SDGs ビジネスアワード」について県職員 杉村氏が紹介します。</p>
14:10   15:10	<p><b>5</b> 未来のために、環境のために、みんなで目指すプラごみゼロ～循環型社会の実現にむけて～</p> <p>登壇：島田市 名倉 真也氏</p> <p>「世界に誇れる環境先進都市」を目指す島岡市では、プラスチックごみゼロに向けて、異分野とのコラボレーションや企業との連携によりライフスタイルの変革に取り組んでいます。皆さんの地域でも取り組める資源循環の取組や企業への巻き込み方を紹介します。あなたの街でもできることを是非見つけてください。</p>	<p><b>6</b> チャレンジ歓迎！地域外の人材とも連携したまちづくり</p> <p>登壇：東川町 小西 聖英氏 × NEC ネットズ エイアンド 泉 祐哉氏</p> <p>人口が減少続ける「写真文化館 写真の町」北海道東川町。その背景には、創出にたもたれず色んな取り組みにチャレンジしている自治体と、一緒にまちづくりに取り組む地域外の人材の活躍があります。地域外の人材もまちづくりに巻き込む、その仕組みやコツは？外部人材と連携した取組を進めていきたい方にお勧めです。</p>
15:20   16:20	<p><b>7</b> エネルギーで地域を強くする！地域の「環境」と「経済」変革の時</p> <p>登壇：株式会社アズマ 中島一真氏 × エネファクトリー 清水 広行氏</p> <p>地域主導で地域に利益する「脱炭素」を進めたい、そんな方に向け、2つの地域から取組事例や取組を進めるためのコツをご紹介します。地域主導でエネルギーの地域内循環をつくることで「強い地域」にシフトし、成長につなげていくことができます。脱炭素をチャンスととらえ、地域の存続戦略として活かしていませんか？</p>	<p><b>8</b> 産官学民のあらゆる関係者の取組発信を通じて地域共創を促す「Platform Clover」～豊田市での実践と協働～</p> <p>登壇：法政大学 阿部 友紀氏 × 豊田市 社本 学氏</p> <p>地域づくりには、産官学民のあらゆる関係者による協働・共創が必要です。地域の課題解決に向けて様々な関係者が有している多様なニーズやシーズを繋ぎ、ネットワークの場を提供する「Platform Clover」、ツールの使い方や登録方法などの活用方法を紹介します。豊田市での具体的な活用事例についてお話しします。</p>
16:30   17:00	<p>関係省庁による地域循環共生圏づくりに関連した事業・取組紹介</p>	<p>各官庁から、地域循環共生圏づくりに関連する事業や取組事例をご紹介します。各官庁の担当者へ気軽に質問いただけるよう質疑応答の時間も設けています。地域循環共生圏の視点を持って事業に取り組みたいと思っている方、今後の事業で補助金活用を検討されている方、ぜひこの場をご活用ください。</p>
17:00	閉会	

最新情報・詳細はこちら ▶ <http://chiikijunkan.env.go.jp/tsukuru/forum/2023/>





# 環境省中部環境パートナーシップオフィス

[所在地] 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F

[メールアドレス] info@epo-chubu.jp

[サイト] <https://www.epo-chubu.jp>

[Facebook] EPOchubu

🔍 EPO中部